

すいはく 博物館だより

No.32

旧中西家住宅 (吹田吉志部文人墨客迎賓館) が開館しました。



旧中西家住宅 (吹田吉志部文人墨客迎賓館)

旧中西家住宅 (吹田吉志部文人墨客迎賓館) は岸部中4丁目13番21号にあります。江戸時代に建てられた多彩な建物が良好に残ることから庄屋・大庄屋の屋敷構えを伝えるものとして高い評価を受け、平成15(2003)年に主屋や長屋門、勘定部屋、土蔵など計7棟が国の登録有形文化財に登録され、さらに平成18(2006)年に市の有形文化財に指定されました。昨年1月に所有者の中西家から土地と建物の一部の寄付をいただき、このたび、「旧中西家住宅 (吹田吉志部文人墨客迎賓館)」として11月17日に開館しました。今後、さらに文化財の保存と活用を進めていきます。本号ではこれに関連した記事を集めます。

(桑田佳純)

旧中西家住宅見学のみどころ

旧中西家住宅では日常の管理・清掃などの他、観覧者への解説・案内についても地域のボランティアの支えを受けて運営されています。観覧者へのアンケートによりますと、建物、庭園等の施設についての高い評価だけでなく、ボランティアの解説にも多くの賛辞が寄せられています。そこで、旧中西家住宅に日頃身近に接し、熟知されている解説ボランティアのみなさんから旧中西家住宅のみどころを紹介させていただきます。

ここでは中西家に継承されてきた伝統とか心意気を強く感じます。古いものと新しいものの調和がとれ、ここを訪れるとゆったりとした気持ちになり、心が豊かになります。私は「喫茶去」に座り、腰窓を額縁にして庭園を眺めて、その風情を楽しむのが大好きで、一見に値します。（榎 寿紀さん）



主屋の「喫茶去」から見る庭園

女性の立場としては台所、ダイニングキッチンがおすすめです。古建築を残しながら使いやすいように現代風に調和をとった改装をされているのがすばらしく、特に女性の見学者もよかったという感想が多かったです。（荒河 裕子さん）

玄関棟の縁側からみる東の庭がいいですね。窓の下がすぐ回遊式庭園で、2階からの眺めのようにすばらしい。特に新緑の頃がおすすめです。

（小堀 享子さん）

玄関棟から見る西の庭園は趣おもむきがあっていいですね。秋の時期には紅葉で映える赤みがすばらしいと思います。

（富田 和昭さん）



東の庭園

静寂の中で心を休められる所であると思います。東の庭園の斜面に木が植えられていて、溪谷のような感じがすばらしいと思います。定期的なみごろは桜の花が咲く頃がいいと思います。（岸本 幹彦さん）

東の門から入ってまず目につく東の庭園の掘り込みが池のように見えますが、奥へ進んでから振り返りますと庭園だということに気づき、そのすばらしさに感銘を受けます。

(澤田 和代さん)

庭園は見る角度や場所によって趣が違って見えます。特に主屋の「喫茶去」から見る枯山水の庭はすばらしいと思います。また、主屋で江戸時代の古い様式の外観と内部の現代的な様式とのギャップがたいへん面白いと思います。

(植田 公美子さん)

主屋の外観と内部の一部が縦と横の直線の白黒基調で整っているのが、心が安らぎます。また、玄関棟等に使われている唐長さんの京唐紙によるふすまが他ではあまり見られないものでみどころと思います。(森川 博子さん)

東の庭園をかがんで見た時に溪谷のような感じがし、すばらしいと思います。

(並田 操さん)



ボランティア解説風景（主屋前）



ボランティア解説風景（主屋内）



ボランティア解説風景（勘定部屋前）

最後に、小堀さんからボランティアのみなんで、旧中西家住宅を迎賓館の役割をもつ市の施設であるということに気にとめて品格を持ちながらボランティア活動を行いたいと話合っていますとのお話がありました。現在は古建築や庭園というハードの面で見学者を呼んでいますが、今後はボランティアというソフトの面で、さらに人を引き付けることが大いに期待されます。(西本安秀)

*** 観覧の申込み方法については旧中西家住宅（電話 06-6386-1182）へお問い合わせください。**

<旧中西家住宅の解説ボランティアのみなさん>

荒河 裕子、植田 公美子、奥澤 和美、樫 寿紀、岸本 幹彦、久堀 求、小堀 享子、澤田 和代、富田 和昭、並田 操、古谷 啓伸、森川 博子

旧中西家住宅のさまざまな花

旧中西家住宅は近世後期以降、嶋下郡しましもぐん（現在の吹田市東部と茨木市）の淀藩領よどはんりょうの大庄屋役を勤めた中西家の住宅です。文政9（1826）年建築の主屋（入母屋造・瓦葺ツシ二階造）、土蔵、長屋門など7棟を備え、近世の大型民家の建築として評価が高いです。しかし、建築物だけでなく、庭園も趣のある風情が楽しめます。庭園を彩り豊かにするのは、春のサクラ、秋のカエデが顕著ですが、ほかにも四季それぞれに花を咲かせる植物が多数見られます。旧中西家住宅観覧の際にこうした植物を觀賞するのもひとつの楽しみ方ではないでしょうか。以下に敷地内に所在する植物の一部の位置と写真をご紹介します。



旧中西家住宅の花の位置図（*図中番号は写真番号に対応）

旧中西家住宅のさまざまな花1



1 ソメイヨシノ(バラ科) 4/5



2 ソメイヨシノ(バラ科) 4/8



3 シダレザクラ(バラ科) 4/10



4 ヤマブキ(一重山吹 バラ科) 4/13



5 ツバキ(紅朴伴 ツバキ科) 4/13



6 ヤエザクラ(バラ科) 4/23



7 サツキ(ツツジ科) 4/23



8 シラン(ラン科) 5/24



9 リキュウバイ(バラ科) 5/29



10 ムラサキカタバミ 5/29
(カタバミ科)



11 サツキ(ツツジ科) 5/29



12 バラ(バラ科) 5/29

旧中西家住宅のさまざまな花2



13 ハナショウブ (アヤメ科) 6/4



14 クチナシ (アカネ科) 6/12



15 セイヨウアジサイ 6/19
(ユキノシタ科)



16 ガクアジサイ (ユキノシタ科) 6/19



17 キキョウ (キキョウ科) 6/26



18 ゼフィランサス 7/6
(ヒガンバナ科)



19 サルスベリ (ミソハギ科) 8/20



20 ミヤギノハギ (マメ科) 10/4



21 ヒガンバナ (赤花) 10/4
(ヒガンバナ科)



22 ヒガンバナ (赤花) 10/6
(ヒガンバナ科)



23 ヒガンバナ (白花) 10/6
(ヒガンバナ科)



24 シュウメイギク 10/24
(キンボウゲ科)

旧中西家住宅のさまざまな花3



25 ツバキ(キク科) 11/11



26 ノジギク(キク科) 11/11



27 セイヨウカマツカ(バラ科) 11/11



28 カリン(バラ科) 11/20



29 イロハモミジ(カエデ科) 11/28



30 ナンテン(メギ科) 12/23



31 マンリョウ(ヤブコウジ科) 12/23



32 ツバキ(キク科) 12/23



33 センリョウ(センリョウ科) 12/25



34 マンリョウ(ヤブコウジ科) 12/25



35 サザンカ(ツバキ科) 12/26



36 サザンカ(ツバキ科) 12/26

(撮影：露口 弘、西本安秀、桑田佳純 花の名前の後ろの数字は撮影月日)

旧中西家住宅の不思議探索① <大小板>

これは「大小板」といい、「篆書」体で「大」と「小」の文字が表裏に書かれています。江戸時代、1カ月が「大」の月(30日)か「小」の月(29日)かを知らせるため、軒先などにつり下げられていたものです。江戸時代の暦は太陰太陽暦(旧暦)といい、1年が大(30日)と小(29日)の月の12カ月で構成(19年に7回、1年が13カ月になる閏月が設けられた)されていました。この暦は明治5(1872)年の太陽暦(新暦)になるまで、幕府の天文方から年毎に示されていましたが、毎年大小の月が定まっていませんでした。江戸時代は盆や暮及び月末にお金を支払うのが一般の商習慣であったため、毎月の大小がわかる「大小暦」を購入したり、軒先につり下げられた「大小板」などで支払月末が大の月(30日)か小の月(29日)を確認することは日常生活上欠かせないものだったのです。

(露口 弘)



上：「大」の月 下：「小」の月

ペーパークラフトで歴史を学ぼう2

「吹田市立博物館だより」第30号で紹介しましたペーパークラフトですが、新作ができましたのでご紹介します。NO.6陶棺は市内の似禅寺山遺跡出土の陶棺(古墳時代終末期)を復元したものです。NO.7唐式鏡は五反島遺跡出土鏡(奈良時代)をモデルに制作したものです。NO.8井戸は特定のモデルはありませんが、江戸時代の井戸(井戸枠、釣瓶、井戸屋形)を再現したものです。今後もさまざまなものを題材に取り組んでいきます。

(西本安秀)



NO.6 陶棺



NO.7 唐式鏡



NO.8 井戸

編集後記 今号では昨年開館した旧中西家住宅を特集し、より誌面を充実させるための試みとして、大幅に編集を変えてみました。今後もより一層の誌面の充実を努めていきます。(西)

吹田市立博物館だより 第32号
平成20(2008)年2月1日発行
吹田市立博物館
〒564-0001 吹田市岸部北4丁目10番1号
TEL.06(6338)5500 FAX.06(6338)9886
<http://www.suita.ed.jp/hak/>